

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2017.3.26) —最新ハイエンドオーディオアナログレコード試聴会—

1. はじめに

上新電機日本橋 1 番館で開催された最新ハイエンドオーディオアナログレコード試聴会にハイエンドでのアナログはどのようなものかという期待を込めて行ってきました。

2. 使用機器

アナログプレイヤー：[ペアーオーディオ Robin Hood SE](#)



フォノイコライザー：[マッキントッシュ MP100](#)



プリアンプ：[PASS XP10](#)

アンプ：[PASS XA60.8](#)

スピーカー：[MAGICO S1mk2](#)



当日のセッティング

3. 試聴会の進行

使用されたカートリッジは事前のアナウンスにはなかったのですが、**My Sonic** の **Signature Gold** が使用されました。また、CD との比較のためアキュフェーズの **DP410** も使用されました。

試聴はプレイヤーや付属のアーム、フォノイコライザー、スピーカーなどの仕様の説明を織り交ぜながら進行しました。

最初はアナログからということで、女性ボーカル、辻井信行のカンパネラ、ダイアナ・クラール、ジャズとが順次かけられていきましたが、いずれも **My Sonic** のカートリッジの効果が大きく、欠点をあげつらうようなところはありませんでした。欲を言えば、カンパネラは音の綺麗さが目立ってはいるものの、もう少しダイナミズムが欲しいところでした。

次に、レスピーギのローマの松の数トラックがかかりましたが、分解能の良さ、音の切れ味の良さと静寂感などが印象に残りました。欲を言えば、弦のウェット感がほしい感じでした。

ここで **CD** との比較ということで、女性ボーカル、民族音楽、ジャズ、オルガン曲とかけられていきましたが、オルガン曲は若干オーディオ的なお向こう受けを狙った録音のようで、生のオルガンとは違った音でした。特にペダル領域の音がつまったように聴こえたのは密閉型の **Magico** のスピーカーの特性によるものと思われます。

ここでリクエストタイムになり、**CD** でフロアーからの女性ボーカルとケルンコンサートがかけられましたが、ケルンコンサートのピアノは音の綺麗さは分かるものの、倍音が飛んでしまって、本来のベーゼンドルファーの質感が出し切れておらず、若干電子ピアノのような音色になっているように感じました。さらにアナログにもどってチェロがかかりましたが、チェロの胴鳴りの膨らみが抑えられたように聴こえました。ちょうどケルンコンサートの **CD** に対するアナログ盤もあるということで聴きましたが、もともとの盤質の良さを **My Sonic** のカートリッジが引き出し、ベーゼンドルファーの質感を十分に味わうことができ、キース・ジャレットの演奏のありようが分かるようようでした。

結論的には、ともかく **My Sonic** のカートリッジの効果がすべてといったところで、上記で「欲を言えば」と指摘したところは、**Magico** のスピーカーの禁欲的なパフォーマンスに由来するのではないかと思われます。

以上